



松本 昌泰
(まつもと・まさやす)

1952 (昭和27)年2月13日徳島県麻植郡鳴島町 (現在の吉野川市) 生まれ。1976 (昭和51)年、大阪大学医学部卒業。研修中の父親の脳梗塞発症を機に脳血管障害を研究テーマとすることを決意、第一内科脳循環グループに所属して脳卒中研究をスタートした。病態診断・治療法の画期的な進展を前に研究は困難をきわめた。やがてスナネズミの脳虚血モデルを用いた脳局所の血流量やモノアミン測定法を確立。本領域の有力教授らに評価されることになった。1984 (昭和59)年、米国メイヨークリニック神経内科学教室に留学。柳原研究室において脳微小領域の不均等血流変化をはじめとした脳循環代謝の病態解明に精力を注いだ。帰国後、大阪大学医学部第一内科講師。助教授を経て、2002 (平成14)年、広島大学大学院病態探究医科学講座脳神経内科教授に就任した。2012 (平成24)年、広島大学大学院医歯薬保健学研究院脳神経内科学教授に組織改編後、2015 (平成27)年 JCHO (独立行政法人地域医療機能推進機構) 星ヶ丘医療センター病院長。脳循環代謝を中心とした神経疾患から老年病、循環器疾患、動脈硬化性疾患など、自身の幅広い専門分野と豊富な経験を超高齢社会のわが国の地域医療に活かそうと引き続き情熱を燃やしている。2015 (平成27)年、第40回日本脳卒中学会学術集會会長、2017 (平成29)年、第49回日本動脈硬化学会総会・学術集會会長を務めた。平成28年度公益信託美原脳血管障害研究振興基金 (美原賞) を受賞した。現在広島大学名誉教授、および大阪大学招聘教授。



聞き手

北川 一夫

東京女子医科大学医学部神経内科学 教授